「人が育つとは」　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長　楡　木　伸　司

　稲穂が沢山の陽を浴びて、頭（こうべ）を垂れるまでになるには、時間や環境とそれを支える手間暇（愛情）が必要である。教育もまたしかり。

今から20年以上も前のことだが、私はやんちゃな生徒たちと悪戦苦労しながら、日刊で学級通信を書き、その様子を話題に生徒同士の横のつながりや保護者と縦のつながりを作っていった。そんな中、3年始めに1人の生徒が突然学校に来なくなり、対応に苦慮する日々が続いていた。そのとき、ある生徒から「あいつのことを心配しているのは、俺らも同じ。でも先生のように熱く迫られると「わかった」ってすぐに言いにくいんだよ。ここは俺たちに任せておいて。」と声をかけられた。独りよがりの指導をしていた恥ずかしさと、生徒たちが想像を超える成長していたことの嬉しさが入り交じっていた。1ヶ月後、その生徒は無事学校に戻り、最後の学校祭も大成功に終わり、卒業証書を全員に渡すことができた。

　時は経ち、卒業後20年目の節目にクラス会が開かれ、私は当時のクラスＴシャツを着て参加したところ、生徒は大爆笑。急にタイムスリップした感覚になり、昔話に花が咲いた。彼らの仕事はＩＴ企業社長、紅茶店経営、水産加工場経営、看護師、教師、理学療法士、介護福祉士、サラリーマン、専業主婦など様々で、夢を紆余曲折しながらも実現させた者もいれば、夢破れた者もいた。しかし、彼らは皆、この激動の社会を逞しく乗り切ろうと日々努力し、どっかと根をおろし逞しく生きていた。そんな彼らに対し、私は当時感じていた謝意を改めて口にした。「みんなに出会えたこと、そしてみんなから学ばせてもらったことが今の自分の大切な財産になっている。ありがとう。」と。彼らもまた、当時の仲間との出会いをやはりお互い感謝しあっていた。彼らは実に立派な大人に成長していた。

　努力しても必ず成功するとは限らない。仮に失敗したとしても、大切なのはその貴重な「経験」を次にどう生かすかであり、その挑戦こそが真の意味で人の価値を定めていくことになる。「人が育つ」ことには、一見遠回りのような非効率なことも実は必要であり、経済の世界であれ、福祉の世界であれ、医療の世界であれ、どの仕事に就いたにせよ、一緒に働くスタッフとの出会いや、十分な時間と経験の積み重ねが不可欠なのである。学ぶこと、そして育つことは生涯に渡ってのことであり、大切なものを守るために、誠実に努力を続ける者こそが、「**人財**」として社会で確かな信用を得られていくと私は信じる。

3年生諸君、自分や仲間を信じ、挑戦する勇気と行動力を持って、これからも前に進もう。